

(様式1)

平成23年度 第4次総合計画進捗状況表

1 政策一施策

都市像	01 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市		
政策	01 協働によるまちづくり		
施策	02 市民の声がまちづくりに反映される仕組みをつくる		
めざす内容	パブリックコメント制度や市民意識調査、各種審議会や広聴制度などを通してまちづくりに関する市民との対話を促進することで、市民の声が反映されるまちづくりをめざします。		
施策の取り組みの柱と方針			
<p>1 住民自治を促進する行政運営の確立 ○自治基本条例や協働の指針などの制定に取り組み、住民自治を促進する自治のあり方を体系化します。</p> <p>2 行政への市民参画の仕組みの充実 ○市民意識調査、パブリックコメントなどの公聴・意見提案制度の充実に取り組みます。 ○市長や職員が地域へ外向き、市政の抱える課題について市民と話し合うなど、行政に市民の声を反映させる取り組みを推進していきます。 ○行政計画の策定や道路や公園などの地域施設づくりにおいて、ワークショップや市民会議を開催するなど、市民と協働できる仕組みづくりをすすめます。</p>			
施策担当課	所 属 (部・課)		
	主管課	企画調整課	関連課

2 成果指標の実績とめざそう値

指標名及び指標番号	単位	現状値	2010	2012	2017	指標の意図・説明
			H22年	H24年	H29年	
4	市政運営に対する満足度	% 57 (2006)	54.8	70	70	さまざまな意見に配慮した、市民から見て納得性の高い市政運営とみなされているかどうかをみる指標です。 当面、7割以上の満足度をめざします。
	H21年度実績に対するコメント または指標値の把握が 困難な場合はその理由	取得方法または 出典など 市民意識調査。(現状値はH18年度 市民意識調査における類似項目を 掲示。)	パブリックコメント制度については、平成22年度は、7件(市民意見7件)の活用があった。 「なは市民協働大学」の開催は、フォーラムも含め13回に達し、様々な市民意見の聴取に役立ったものと思われる。			

3 今後の展開方針

<p>平成22年度(2010)市民意識調査で、当該指標調査の精査を行い、市民評価の現状と動向も含めて分析した。その結果、「わからない」や無回答を除いた有意な回答では、54.8%の満足を得ていることがわかった。しかし、「わからない」無回答という市政に関心のない回答や回答を加えた割合では、当該指標の満足度は31.4%にとどまった。積極的に市民の声を反映させるのは難しいとしても、その意見にはしっかり耳を傾けて聞いているという姿勢を様々な場面で見せて、現在「不満」と答えている意見を「満足」に転換させていきめ細かな取組が必要と思われる。それができれば、有意回答でのめざそう値達成は十分達成可能であり、全回答における満足の割合についても、めざそう値に近い成果があげられると考える。</p> <p>取組として進めてきた自治基本条例の制定については、未だ市民意識の涵養が必要な状況で、足踏み状態であるが、市民意識調査における自由意見の精査と実効性を伴う対応を行うことで、当該指標の満足度を高められると考えられるので、その方面からの対応も進めていきたい。</p>
